# 利根川流域の特徴

|  |
| --- |
| ・利根川は新潟県と群馬県の県境にある（標高1,831m）から流れ出し、大小の支川を合わせながら、関東平野を北西から南東へ流れ、千葉県銚子市で太平洋へと注いでいます。  ・利根川の流路は、元は東京湾に流れ込んでいましたが、徳川家康の「利根川東遷事業」により変更されました。  ・今日では、流域内には約１,279万人もの人口を擁し、利根川はその基盤となる生命の水を与え続けています。流域面積は1万6,840平方km（日本一）で、面積でみると埼玉県の約4倍にもなります |

※降雨や降雪が○○河川に流入する全地域を○○河川の流域と言います。

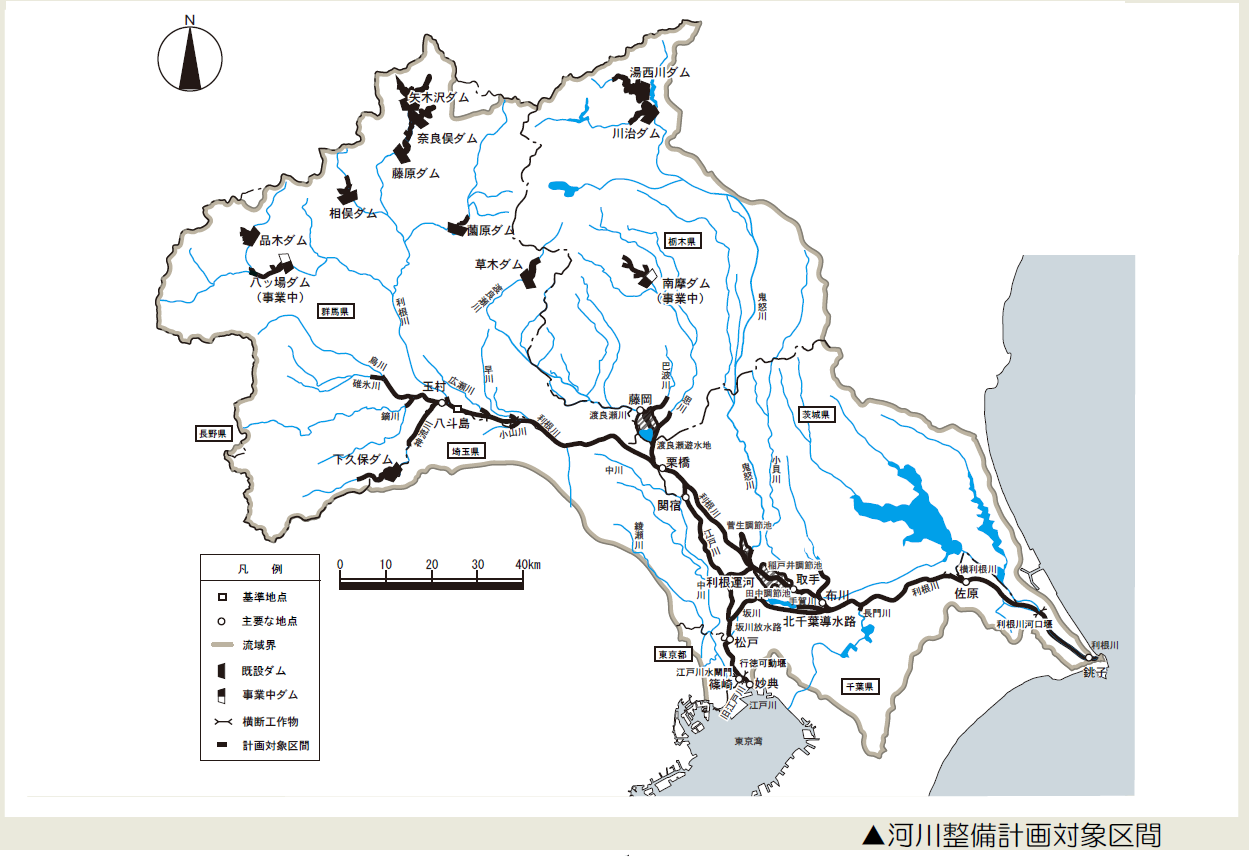
#### 流域

利根川流域

大水上山

八斗島地点の集水域

八斗島地点



【解説】

利根川は、その源を群馬県利根郡みなかみ町の大水上山（標高1,831ｍ）に発し、栗橋町付近で思川、巴波川等を支川にもつ渡良瀬川を合わせ、野田市関宿付近において江戸川を分派し、さらに東流して鬼怒川、小貝川等を合わせ、霞ヶ浦に連なる常陸利根川を合流して、太平洋に注ぐ幹川流路延長322km、流域面積16,840 ㎞2の一級河川です。

その流域は、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県及び群馬県の1都5県にまたがり、首都圏を擁した関東平野を流域として抱え、流域内人口は日本の総人口の約10分の1にあたる約1,214万人に達しています。

利根川は、江戸時代以降の産業、経済、政治の発展の礎となっただけでなく、戦後の急激な人口の増加、産業、資産の集中を受け、高密度に発展した首都圏を氾濫区域として抱えているとともに、その社会・経済活動に必要な多くの都市用水や農業用水を供給しており、首都圏さらには日本の政治・経済・文化を支える重要な河川です。また、流域内には、関越自動車道、東北縦貫自動車道、常磐自動車道等の高速道路及び東北、上越、北陸新幹線等があり、国土の基幹をなす交通施設の要衝となっています。

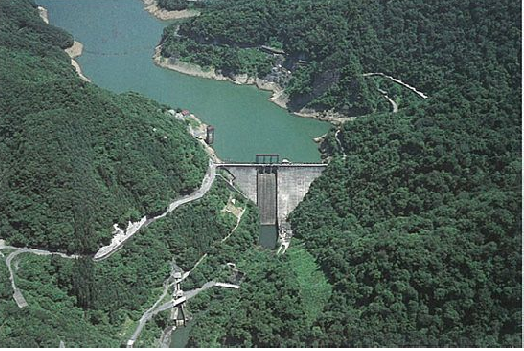
参照：流域及び河川の概要（基本方針）（利根上流河川事務所）

：利根川水系 利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】（国土交通省関東地方整備局、H29.9）

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/index00000017.html

：利根川ダム統合管理事務所HP　 http://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/tonedamu\_index001.html

#### 遊水地・ダム（洪水調節施設）



**利根川**

**渡良瀬川**

**菅生調節池**

**稲戸井調節池**

**田中調節池**

**渡良瀬遊水地**

**藤原ダム**

【解説】

利根川の上流域には7ダム（烏川流域含む）、渡良瀬川流域に１ダム、鬼怒川流域に2ダムが完成し、中流域に1遊水地、3調節池があり、これら利根川の施設の洪水調節により、利根川、そして江戸川の水位低減が図られています。また、ダムや遊水地は、洪水調節といった治水だけでなく、農業用水や水道水、工業用水及び発電等にも利用されています。

中流遊水地・調節池

利根川中流部には、洪水を一時的にため込んで下流に流れる洪水の量を減らすための施設として、渡良瀬遊水地、菅生調節池、稲戸井調節池、田中調節池の整備が進められています。

上流ダム群

　利根川上流部には、洪水をため込んで利用するための多目的ダムが数多く建設されています。利根川の上流部に藤原ダム、相俣ダム、薗原ダム、矢木沢ダム、奈良俣ダムおよび八ッ場ダムの6ダムが完成しているほか、支川の烏川流域の神流川には下久保ダム、鬼怒川流域に川治ダム、湯西川ダム、渡良瀬川流域に草木ダムが完成しています。

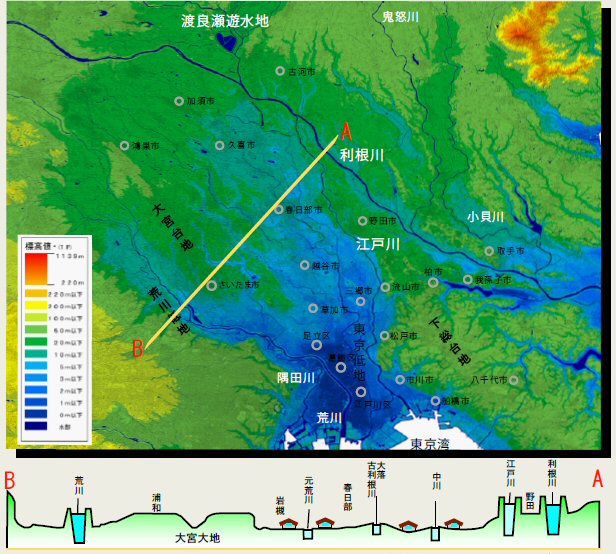
参照：流域及び河川の概要（基本方針）（利根上流河川事務所）

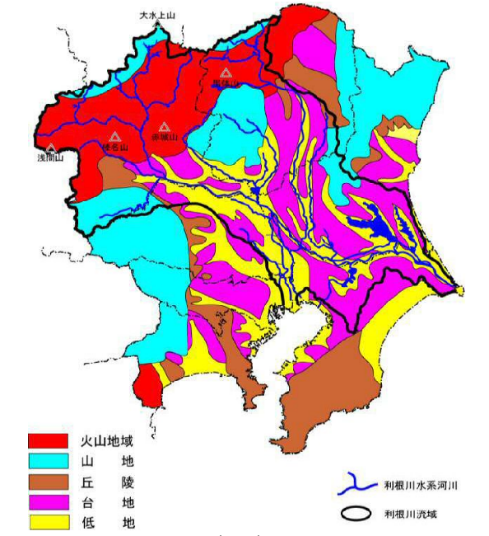
https://www.mlit.go.jp/river/basic\_info/jigyo\_keikaku/gaiyou/seibi/tonegawa\_index.html

　　：利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）の概要

http://www.ktr.mlit.go.jp/river/shihon/river\_shihon00000019.html

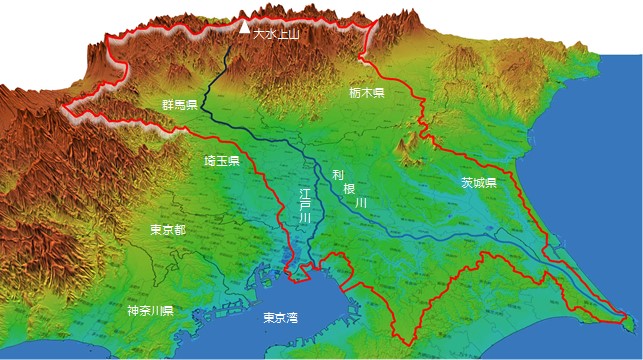
#### 地形





幸手・久喜付近

利根川流域の標高



幸手・久喜付近

利根川水系の３Ｄ色別標高図

【解説】

利根川は、東・北・西の三方を高い山地に囲まれ、南東側だけが関東平野に連なる低地になっています。

上流域は、標高1,500m～2,500m の山地から成り、群馬県の草津白根山、榛名山、赤城山等、また栃木県では鬼怒川上流の日光白根山、男体山等があります。丘陵は、山地から台地、低地に移る山麓に断片的に分布しており、洪積台地が利根川の中・下流に広く分布しています。台地の標高は、平野中央部にあたる幸手、久喜付近が最も低く、周辺部に向かって高くなる盆地状を示しています。

この地形的特徴により、利根川の右岸堤防が万が一決壊すると、その氾濫は埼玉県東部、東京都まで達する可能性があります。

参照：利根川河川維持管理計画（利根川上流河川事務所）

http://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/tonejo00101.html

#### 利根川の東遷



利根川東遷概要図

【解説】

1590年、江戸に入府した徳川家康は、洪水防止、舟運発達、新田開発などの目的のために様々な河川事業に着手しました。その中でも一大事業であったのが、それまで東京湾に流れ込んでいた利根川の流路を太平洋に変更する「利根川東遷事業」です。

「利根川東遷事業」は、江戸時代、江戸の町（現在の東京都）を洪水から守り、銚子から江戸までの交通路を開き、さらに田や畑を広げるために、利根川の流れを東に変えるという大工事でした。徳川家康の命により、この事業は文禄3年（1594年）に始まり、60年の月日が費やされました。利根川東遷により、渡良瀬川は利根川に流れ込むようになり、利根川と川（江戸川）がつながりました。